

# 京大 広報

KYOTO UNIVERSITY



2025.10

No. 783

号 外

## 北川 進 理事・副学長、特別教授、 ノーベル化学賞受賞

### 目 次

- 北川進 理事・副学長、高等研究院特別教授ノーベル化学賞受賞の報に接して ..... 6209  
総長 湊 長博
- ノーベル化学賞受賞に際して(10月8日コメント) ..... 6210  
理事・副学長、高等研究院特別教授 北川 進
- ノーベル化学賞受賞に際して(10月9日コメント) ..... 6210  
理事・副学長、高等研究院特別教授 北川 進
- 北川進 理事・副学長、高等研究院特別教授ノーベル化学賞受賞の報に接して ..... 6211  
高等研究院長 森 重文  
大学院工学研究科長・工学部長 立川 康人  
北川理事・副学長、高等研究院特別教授ご夫人
- 北川 進 理事・副学長、高等研究院特別教授の受賞発表後の動き ..... 6213
- 北川 進 理事・副学長、特別教授の略歴 ..... 6214



京都大学

所属・職名については、行事開催時点のものです。

## 北川進 理事・副学長、高等研究院特別教授 ノーベル化学賞受賞の報に接して

総長 湊 長博

このたび、本学の北川 進 特別教授が、長年にわたる卓越した研究業績を評価され、2025年ノーベル化学賞を受賞されましたことは、誠に喜ばしいことであり、京都大学を代表して、心からお祝い申し上げます。京都大学の一員として、本当に誇りに思います。

北川先生は、福井謙一先生以来の京都大学の化学研究の進取と独創の伝統を引き継がれ、スウェーデン王立科学アカデミーの発表にもあったように、まさに化学の世界に全く新しい領域を開かれ、今日の榮譽に輝かれました。

さらに、研究に加え、北川先生は研究推進担当理事として、見事な構想力と指導力で本学の大学改革推進にも多大の貢献をいただいております。総長として心から感謝しております。

2018年の本庶 佑先生の受賞以来、久しぶりにこの受賞記者会見の場に立ち会い、京都大学の長い歴史の中で培われてきた独創的な基礎研究の伝統を改めて実感し、ただただ誇り高い気持ちでいっぱいです。

今回の北川先生の受賞は、本学のみならず、日本中の学生や若手研究者にとっても大いに励みになるものと確信しております。

今後も独創的で先駆的な世界に誇る研究成果を生み出し続けられるよう、卓越した若手研究者の育成に努めてまいります。

改めて、北川先生の素晴らしい榮譽を、心よりお慶び申し上げます。



左 北川理事・副学長、特別教授、右 湊総長

[目次に戻る ↗](#)

## ノーベル化学賞受賞に際して（10月8日コメント）

理事・副学長、高等研究院特別教授 北川 進

かくも(多くの方々に)ここに集まってもらい、感激しております。

私の研究は、新しい材料づくりということで、皆さんがご存じの活性炭やゼオライトとは違った、新しい機能を持った材料開発をしてまいりました。

新しいことにチャレンジする、科学者として大切にしてきたことです。辛いこともたくさんあるのですが、実際に新しい物を作っていくこと、それを30年以上楽しんでまいりました。今般、かくも大きな栄誉をいただくことになり非常に感激しております。

何よりも、化学を一緒に進めてきた私の同僚、学生の皆さん、海外を含めた博士研究員の皆さんに感謝申し上げたいと思います。そして、理解し、支えてくれた家族にも感謝しています。

また、やはり、私はいい環境に恵まれたと感じています。化学にどっぷりとつからせていただいて、今日に至りました。退職年齢を過ぎてもまだ研究をしています。研究をさせてくれた京都大学には心から感謝しています。



[目次に戻る ↗](#)

## ノーベル化学賞受賞に際して（10月9日コメント）

理事・副学長、高等研究院特別教授 北川 進

おはようございます。改めてということですが、今、非常に多くのメールが来ており、全部チェックすることができないくらいです。正式な文書は郵送されるのですが、ノーベル委員会からあら

かじめ3通のメールが送られてきました。そのうちの一つにノーベルウィークでどういうことをするかが書いてありました。本当にやるのがたくさんあるのだと感じた次第です。

おそらく、今までの研究を振り返ったり、感慨に浸ったりするのはだいぶ先かなという気持ちです。本当は今後どのように研究を発展させてい



記者会見でコメントする北川理事・副学長、特別教授

くのかなど、じっくり考えていきたいのですが、その余裕はないので、今は体を大切にしようと思っています。研究以外に大学の理事業務もありますが、大学のために頑張れることは一生懸命にやりたいと思います。

これから研究者を目指す高校生や大学生たちへのアドバイスとしては、やはり、京都大学の伝統でもある、知的好奇心を大切に、面白いことをやってほしいなど。それは、すでに世に出ているものではなく、一からクリエイティブしていくということです。どういうことかというと、「無用之用」ですね。今、役に立つと思われていなくとも、違う視点で見ると、「無用」と思われていたことが非常に大きな意味を持つということもあり得ます。

もうすでに先人たちが多くの研究をしてきたから、「やることがない」と、あきらめず、チャレンジ精神を持って挑戦していただきたい。これが、若い人たちに希望することです。

これから行う研究というのは、もちろん今言われている「環境」、「エネルギー」、「生命」、「医療」など、事欠かないほど多くの課題があります。科学技術はこれまで、われわれ人類の幸福に向けて、健康などいろいろな意味で貢献してきましたが、ネガティブな面もありました。ネガティブなところがあるからといって科学を否定するのではなく、われわれ科学者がまたチャレンジして、より良い物やシステムを作り上げるというようなことをしていく必要があります。やることは山積んでいます。若い方々には、ますます研究にのめりこんでほしいと思います。

[目次に戻る ↗](#)

## 北川進 理事・副学長、高等研究院特別教授 ノーベル化学賞受賞の報に接して

高等研究院長 森 重文

北川進先生、ノーベル賞の受賞決定、誠におめでとうございます。

北川先生が微細な孔あなにガス分子を取り込むことができる多孔性配位高分子を開発されたことは、気体の分離・貯蔵・輸送に全く新しい概念をもたらしました。大気中の汚染ガスの除去、ガス輸送の低コスト低エネルギー化など、環境、エネルギー、医療を含む多方面に大きな影響をもたらす、画期的な発見です。

今後、北川先生の研究成果が社会を変えていく様子を拝見することが大変楽しみです。ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

[目次に戻る ↗](#)

## 大学院工学研究科長・工学部長 立川 康人

本学理事・副学長の北川 進先生が、ノーベル化学賞を受賞されるとの報に接しました。北川先生は本学工学部を卒業後、大学院工学研究科修士課程を経て、大学院工学研究科博士後期課程を修了され、昭和54年に京都大学工学博士の学位を授与されました。その後、近畿大学理工学部助教授、東京都立大学理学部教授を経て、平成10年6月に本学工学研究科教授に着任され、平成29年3月まで工学研究科・工学部において、多くの学生の教育と研究者の指導にあたり、人材を育成されました。平成19年10月からは京都大学物質—細胞統合システム拠点教授となられ、平成29年4月から現在まで、京都大学高等研究院特別教授として研究に取り組まれながら、令和6年4月からは京都大学理事・副学長を務められ、大学運営にも貢献されています。



本学工学部と工学研究科で学ばれ、本学で教育研究に尽力されている北川先生が、このような栄誉を受けられましたことは、工学研究科・工学部にとりまして誠に大きな喜びです。京都大学工学研究科・工学部の教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。

北川先生は、世界に先駆けて多孔性配位高分子 (Porous Coordination Polymer, PCP) の概念を提唱し、その合成に成功されました。PCPは金属イオンと有機配位子から構築される結晶性多孔体であり、国際的にはMetal-Organic Framework (MOF) として広く知られています。北川先生による「PCP」という呼称は、この分野を切り拓いた<sup>ひら</sup>独創的業績を象徴するものです。これらの材料は、気体分子の可逆的な吸着・分離・貯蔵を可能とし、触媒、分離膜、エネルギー貯蔵など多様な応用展開が期待されています。

この偉大な功績をなされた北川先生を誇りに、工学研究科・工学部における教育研究に一層尽力してまいります。

[目次に戻る ↗](#)

## 北川理事・副学長、高等研究院特別教授ご夫人

このたび、夫・北川 進がノーベル賞を受賞しましたこと、本当に嬉しく、名誉なことと思います。

私は、研究内容についてはわかりませんが、結婚以来、研究・仕事一筋に歩んできた姿をずっと見てきましたので、今回、その努力がこのような形で認められましたことを喜んでおります。何よりも夫を教え導いてくださった先生方、共に研究を進めていただいた同僚の方々、学生さんたちに大変お世話になったことが大きいと思っています。心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました。

[目次に戻る ↗](#)

## 北川 進 理事・副学長、高等研究院特別教授の受賞発表後の動き

10月8日(水) 20時00分より、百周年時計台記念館国際交流ホールにおいて、湊 長博 総長および野崎治子 広報担当理事の同席のもと、記者会見を行いました。会見の途中には、あべ俊子 文部科学大臣および城内 実 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)からお祝いの電話を受けました。21時15分からは、新聞社、通信社およびテレビ局による個別の取材・生出演に応じました。



記者会見の様子 (10月8日)



記者会見の様子 (10月8日)



中央 北川理事・副学長、特別教授、右 湊総長、左 野崎理事 (10月8日)



個別取材の様子 (10月8日)

翌10月9日(木) 9時には、同会場での記者会見に先立ち、多くの関係者から祝福される中、百周年時計台記念館前で、高等研究院の職員より北川理事・副学長、特別教授に花束の贈呈が行われました。その後行われた記者会見においては、一晩たつての思いや、これから研究者を目指す高校生、大学生および若手研究者へのメッセージを述べました。9時30分からは、前



花束の贈呈 (10月9日)



石破内閣総理大臣とのオンラインでの面会 (10月9日)

日に続いて新聞社、通信社およびテレビ局による個別の取材に応じました。

17時からは、高等研究院本館において、石破 茂 内閣総理大臣とオンラインで面会し、お祝いを受けてきました。北川理事・副学長、特別教授からは、感謝の気持ちとともに、若手人材の育成や研究環境の改善などの要望を述べられました。

[目次に戻る ↗](#)

## 北川 進 理事・副学長、特別教授の略歴

- 昭和 26 (1951) 年 7月 誕生
- 昭和 45 (1970) 年 3月 京都市立塔南高等学校卒業
- 昭和 49 (1974) 年 3月 京都大学工学部卒業
- 昭和 51 (1976) 年 3月 京都大学大学院工学研究科修士課程修了
- 昭和 54 (1979) 年 7月 京都大学大学院工学研究科博士課程修了
- 昭和 54 (1979) 年 4月 近畿大学理工学部助手
- 昭和 58 (1983) 年 4月 近畿大学理工学部講師
- 昭和 63 (1988) 年 4月 近畿大学理工学部助教授
- 平成 4 (1992) 年 4月 東京都立大学理学部教授
- 平成 10 (1998) 年 6月 京都大学大学院工学研究科教授
- 平成 19 (2007) 年 10月 京都大学物質-細胞統合システム拠点副拠点長・教授
- 平成 25 (2013) 年 1月 京都大学物質-細胞統合システム拠点拠点長・教授
- 平成 28 (2016) 年 6月 京都大学高等研究院副院長
- 平成 29 (2017) 年 4月 京都大学名誉教授  
京都大学高等研究院副院長・特別教授  
京都大学高等研究院物質-細胞統合システム拠点拠点長
- 平成 30 (2018) 年 4月 京都大学高等研究院特別教授 (現職)
- 令和 2 (2020) 年 4月 京都大学高等研究院副院長
- 令和 6 (2024) 年 4月 京都大学理事・副学長 (現職)
- 令和 7 (2025) 年 1月 京都大学総合研究推進本部本部長 (現職)



小学校時代 前列右 (提供: iCeMs)



京都大学大学院時代 前列左 (提供: iCeMs)

[目次に戻る ↗](#)